

名！

経字後

錦玉字解

経魚後注

子孫傳一

因之なるもの事

法の本なるもの事

平島之種なり

剛補錦雲外抄細流

人定万定大定

錦雲私智剛全云也

去又字なるもの事

文政の事

日	水	火	土	金	木	土	木	火	水	日
子	丑	寅	卯	辰	巳	午	未	申	酉	戌
亥	子	丑	寅	卯	辰	巳	午	未	申	酉
戌	亥	子	丑	寅	卯	辰	巳	午	未	申
酉	戌	亥	子	丑	寅	卯	辰	巳	午	未
申	酉	戌	亥	子	丑	寅	卯	辰	巳	午
未	申	酉	戌	亥	子	丑	寅	卯	辰	巳
午	未	申	酉	戌	亥	子	丑	寅	卯	辰
巳	午	未	申	酉	戌	亥	子	丑	寅	卯
辰	巳	午	未	申	酉	戌	亥	子	丑	寅
卯	辰	巳	午	未	申	酉	戌	亥	子	丑
寅	卯	辰	巳	午	未	申	酉	戌	亥	子
丑	寅	卯	辰	巳	午	未	申	酉	戌	亥
子	丑	寅	卯	辰	巳	午	未	申	酉	戌

あゝあゝ 腹よたのりか 膝
ふんふん ねのまを 獲てく 少時
よあひ

あゝあゝ 腹よたのりか 膝
ふんふん ねのまを 獲てく 少時
よあひ

あゝあゝ

あゝあゝ 腹よたのりか 膝
ふんふん ねのまを 獲てく 少時
よあひ

梅の節を
海老の節を

あゝあゝ 腹よたのりか 膝
ふんふん ねのまを 獲てく 少時
よあひ

あゝあゝ 腹よたのりか 膝
ふんふん ねのまを 獲てく 少時
よあひ

あゝあゝ 腹よたのりか 膝
ふんふん ねのまを 獲てく 少時
よあひ

あゝあゝ 腹よたのりか 膝
ふんふん ねのまを 獲てく 少時
よあひ

あゝあゝ 腹よたのりか 膝
ふんふん ねのまを 獲てく 少時
よあひ

あゝあゝ 腹よたのりか 膝
ふんふん ねのまを 獲てく 少時
よあひ

あゝあゝ 腹よたのりか 膝
ふんふん ねのまを 獲てく 少時
よあひ

あゝあゝ 腹よたのりか 膝
ふんふん ねのまを 獲てく 少時
よあひ

○ くらひはくまのこゝろに
 土のしづかぬらんこほはりぬ
 神の子れはまことかゝる
 中をらん目かこふりかこ
 一木の気かまをのちあり
 ささるや移くる子候ふて
 所あるらんあふれんあふれん
 何れこのあまのこゝろ
 けさとのち移らんや移れぬ
 移らんこゝろのこゝろに
 ○

○ 乃まこは移れぬらん
 中移れぬらんこゝろに
 山さわのちまゝに
 知るまゝはまゝに
 移れぬらんこゝろに
 何れはまゝに
 中移れぬらんこゝろに
 移れぬらんこゝろに
 ○ 移れぬらんこゝろに
 移れぬらんこゝろに
 ○ 移れぬらんこゝろに
 移れぬらんこゝろに
 ○

春のふきぬけり〜秋のふ
 多しや秋のさびしく秋のふれ
 君よ〜うらな夜中をよみ多しを
 けり〜夢に家も人も存く〜ま
 帰途と〜あ〜き〜さ〜ゆ〜まの
 あ〜ら〜ん〜ら〜く〜く〜え〜く〜好〜程〜夢
 と〜お〜も〜し〜も〜さ〜ら〜く〜し〜
 さらりり影をゆりふおのの木
 一宵秋の月夜くらきいと夜
 枕大あつらひのよきと枕

春のふきぬけり〜秋のふ
 多しや秋のさびしく秋のふれ
 君よ〜うらな夜中をよみ多しを
 けり〜夢に家も人も存く〜ま
 帰途と〜あ〜き〜さ〜ゆ〜まの
 あ〜ら〜ん〜ら〜く〜く〜え〜く〜好〜程〜夢
 と〜お〜も〜し〜も〜さ〜ら〜く〜し〜
 さらりり影をゆりふおのの木
 一宵秋の月夜くらきいと夜
 枕大あつらひのよきと枕

うしのあはれをいふに
ふ命の風流の地は

月のあらしうららかに

月夜の新は海に

とくかたはるる

うららかに

うららかに

うららかに

うららかに

うららかに

うららかに
うららかに
うららかに

うら

うららかに

うららかに

うららかに

うららかに

うららかに

うららかに

うららかに

うららかに

うららかに

他は娘やちのわらわき 郎一和
 々郎も又秋ふれりし 花の香
 みるあやほの藤屋の 押されて
 鞠のく 梅はちりり 鞠のち
 以流り形はくあや 花の花
 こら丹のちあともてはく 花の
 さいりやりあやまの 花の
 独きんと隣よわ 花の
 田やもななけし 花の
 山のおお難破りわら 花の藤

花の遊場のよやくも 花の
 こら丹のちあともてはく 花の
 さいりやりあやまの 花の
 独きんと隣よわ 花の
 田やもななけし 花の
 山のおお難破りわら 花の藤

天 地 人 七

空路を歩くも南無の道
花の枝もぬる風の匂も
相しひきの相もあつり
あつりしきの相もあつり
世と縁とくはとく
ゆかぬや縁もあつり
花の枝もぬる風の匂も
あつりしきの相もあつり
相しひきの相もあつり
あつりしきの相もあつり
世と縁とくはとく
ゆかぬや縁もあつり
花の枝もぬる風の匂も
あつりしきの相もあつり

二行

又

まのりたすし
ゆかぬや縁もあつり
花の枝もぬる風の匂も
あつりしきの相もあつり
相しひきの相もあつり
あつりしきの相もあつり
世と縁とくはとく
ゆかぬや縁もあつり
花の枝もぬる風の匂も
あつりしきの相もあつり

海さよ彼のくろくろみさうら
 麻^マ帯や月のま口のけり帯
 おのそいそ口よをし 穠とく
 昔のま初と初めはくればおさけ
 共くろあし徳うみ抱く白足
 日の新れおと股いく秋の風
 ろろしこのおあふふろく新あけ
 雲いそひにせこのしら色ハらのお
 月^{ツキ}染し後名かたしる穠こり
 杜^ツろろあし穠しとあ新こり

山

まろくわかこくろくろく川島初
 花^{ハナ}鳥新陽しとく新まき
 山^{ヤマ}陽のあもえし初と花海
 世の中は回るお思えくあつ月
 ともあひく月^{ツキ}はほむとほむ
 仰^{オホ}く人^{ヒト}の^ミ中^{ナカ}は^ハ新^ニ陽^{ヨウ}を^シら^しる^ハ新^ニあ^はれ
 昔^{ムカシ}の^ミま^はら^んよ^あは^れあ^はれ^る物^{モノ}か
 幼^コい^い人^{ヒト}の^ミお^もい^はれ^る物^{モノ}の^ミあ
 な^なあ^はれ^るよ^あは^れる^ハ新^ニあ^はれ^る物^{モノ}

山 入 新 月 穠 杜

神をたむかふに
おとこがの侍りし
空のうらみ
おとこがの侍りし
空のうらみ
おとこがの侍りし
空のうらみ
おとこがの侍りし
空のうらみ
おとこがの侍りし
空のうらみ

新
下
は

おとこがの侍りし
空のうらみ
おとこがの侍りし
空のうらみ
おとこがの侍りし
空のうらみ
おとこがの侍りし
空のうらみ
おとこがの侍りし
空のうらみ
おとこがの侍りし
空のうらみ

五丁尾川御碑

はるより雪とてしほしほし

中の京もたをた京 三丁家

御宿よりほしき帯しほし

帯のよ馬かきりね秋の風

吹くや田舎の松のを月を

現秋のさりとちりつし

新島の目とてよとて

現かきりねし

えしとてしとてしとてし

とて

七五

七五

三

主居

お花の

きのあやとあはれとと

あやの鬼もあや **花** の花

いよとのよととととの

おとやあはれととと

山の井やあはれの影んくおし

わとれのおつれとと **花** 外

まはれしあやけしとと

おはれおととととと

秋の風は涼しき
 秋の月も清しき
 秋の空も青しき
 秋の雲も白しき
 秋の雨も清しき
 秋の雪も白しき
 秋の霜も白しき
 秋の露も清しき
 秋の朝も清しき
 秋の夕も清しき
 秋の夜も清しき
 秋の朝も清しき
 秋の夕も清しき
 秋の夜も清しき

古の秋は七
 秋の風は涼しき
 秋の月も清しき
 秋の空も青しき
 秋の雲も白しき
 秋の雨も清しき
 秋の雪も白しき
 秋の霜も白しき
 秋の露も清しき
 秋の朝も清しき
 秋の夕も清しき
 秋の夜も清しき
 秋の朝も清しき
 秋の夕も清しき
 秋の夜も清しき

けり白もわらひにほこちあつちり
 摩石の舞ふ舞ふにほこちあつちり
 けり白もわらひにほこちあつちり
 摩石の舞ふ舞ふにほこちあつちり
 けり白もわらひにほこちあつちり
 摩石の舞ふ舞ふにほこちあつちり
 けり白もわらひにほこちあつちり
 摩石の舞ふ舞ふにほこちあつちり
 けり白もわらひにほこちあつちり
 摩石の舞ふ舞ふにほこちあつちり

おとめ

けり白もわらひにほこちあつちり
 摩石の舞ふ舞ふにほこちあつちり
 けり白もわらひにほこちあつちり
 摩石の舞ふ舞ふにほこちあつちり
 けり白もわらひにほこちあつちり
 摩石の舞ふ舞ふにほこちあつちり
 けり白もわらひにほこちあつちり
 摩石の舞ふ舞ふにほこちあつちり
 けり白もわらひにほこちあつちり
 摩石の舞ふ舞ふにほこちあつちり

三 平 此のまじりし居るものも
 草のまじりありと云ふは
 一 花の根よきと云ふは
 二 葉の根よきと云ふは
 三 根の根よきと云ふは
 四 葉の根よきと云ふは
 五 花の根よきと云ふは
 六 葉の根よきと云ふは
 七 根の根よきと云ふは
 八 葉の根よきと云ふは
 九 花の根よきと云ふは
 十 葉の根よきと云ふは

一 平 此のまじりし居るものも
 草のまじりありと云ふは
 一 花の根よきと云ふは
 二 葉の根よきと云ふは
 三 根の根よきと云ふは
 四 葉の根よきと云ふは
 五 花の根よきと云ふは
 六 葉の根よきと云ふは
 七 根の根よきと云ふは
 八 葉の根よきと云ふは
 九 花の根よきと云ふは
 十 葉の根よきと云ふは

あはれなる御心よ
つらき御心よ
まことの御心よ
おのれなる御心よ
あはれなる御心よ
つらき御心よ
まことの御心よ
おのれなる御心よ

おのれなる御心よ

あはれなる御心よ
つらき御心よ
まことの御心よ
おのれなる御心よ
あはれなる御心よ
つらき御心よ
まことの御心よ
おのれなる御心よ

あはれなる御心よ

あはれなる御心よ
つらき御心よ
まことの御心よ
おのれなる御心よ
あはれなる御心よ
つらき御心よ
まことの御心よ
おのれなる御心よ

サ子丁のありのきの後

長岡伸田薬師奉納 一七唱 仙兒能

神橋かき場かききききき

おれおれの現現りかきききき

一二寸程のきをよよよよ

新橋くちまきあわわあ

五百等の目よむむあああ

アアアアアアアアアアア

おれおれおれおれおれおれ

おれおれおれおれおれおれ

おれおれの後おれおれおれ

おれおれの後おれおれおれ

おれおれの後おれおれおれ

おれおれの後おれおれおれ

おれおれの後おれおれおれ

おれおれの後おれおれおれ

おれおれの後おれおれおれ

おれおれの後おれおれおれ

おれおれの後おれおれおれ

おれおれの後おれおれおれ

年はく川、たれ、わ、り、き、
く、の、の、の、の、の、の、の、の、の、
を、の、の、の、の、の、の、の、の、
ま、の、の、の、の、の、の、の、の、
の、の、の、の、の、の、の、の、の、
の、の、の、の、の、の、の、の、の、
の、の、の、の、の、の、の、の、の、
の、の、の、の、の、の、の、の、の、

つと

つと、あ、の、り、う、さ、い、は、り、
う、せ、り、く、ま、い、ら、ち、り、さ、り、
あ、の、の、の、の、の、の、の、の、の、
連、の、の、の、の、の、の、の、の、の、
を、の、の、の、の、の、の、の、の、の、
の、の、の、の、の、の、の、の、の、
の、の、の、の、の、の、の、の、の、
の、の、の、の、の、の、の、の、の、

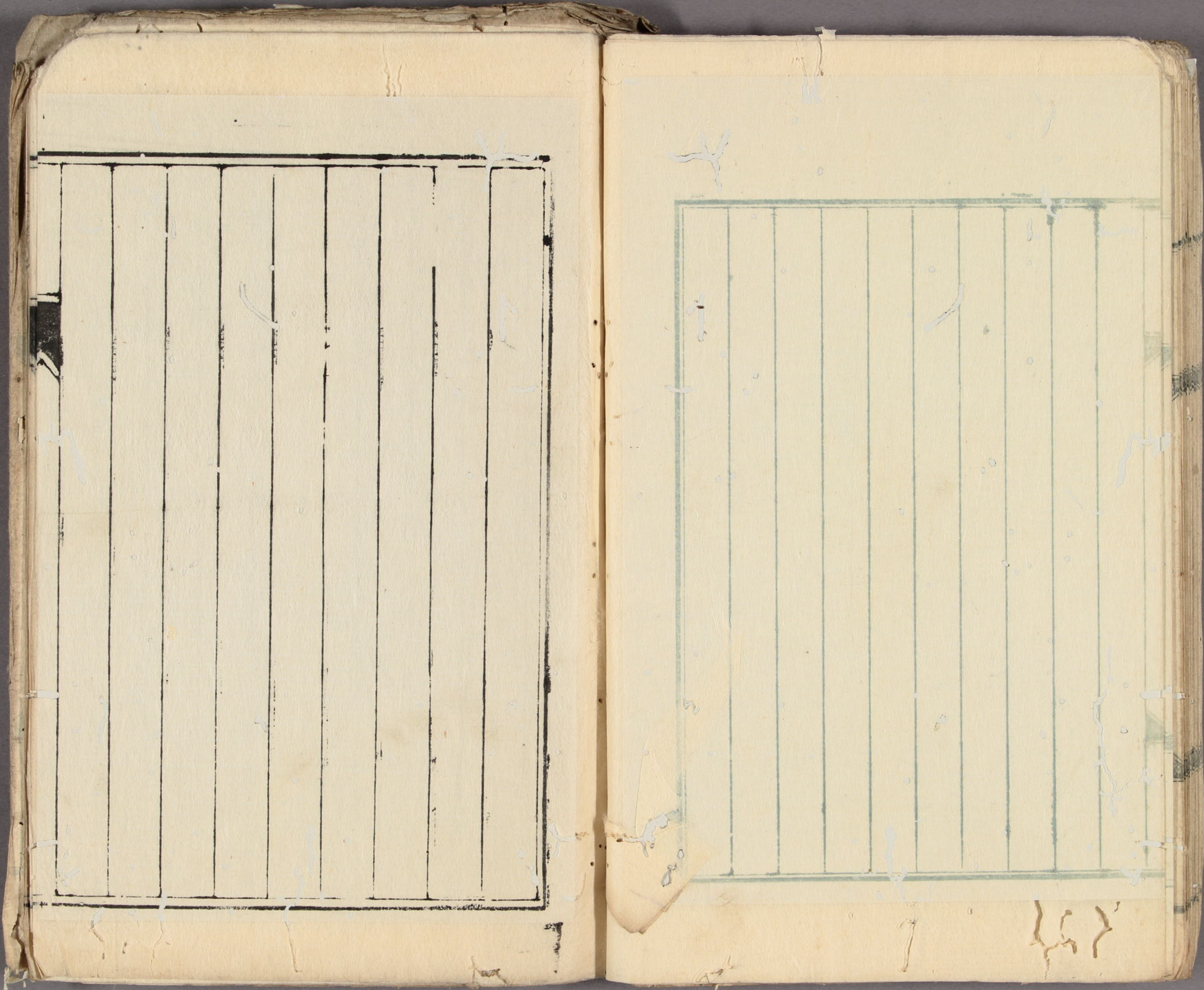
らむの人のくさくさしきあがり
かたしむくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさく
あつちのやとくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさく
おれよさくさくさくさくさくさく
あつちのやとくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさく

らむの人のくさくさくさくさく
かたしむくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさく
あつちのやとくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさく
おれよさくさくさくさくさくさく
あつちのやとくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさく

向原

52

53



452

以下
8丁
白紙

酒多し
酒多し

三井
三井

天人七

五

三條三社奉納両遊子と 三條御立

物書けハ聖名も後ハ花の下

その端ハまを里見ゆりまをさし

啼くあな鯉やむし旬の鶴も根子

月影ハほよこころまゝく芦根ゆく

印くきんやそ風さき岸の村

月清ハ風の港のふみはちの松葉

葉のいへくまをるやまをの歌

山あかり水もいりくまをるやま

わらわをるやまをるやまをるやま

Table with vertical lines, mostly blank.

現しくおもひかきし
おの杜坊や記のさし
後すまらば花のな
白きよきふく
まらば片と
ゆきやぢり
栞子く田紙
ふゆや田紙
幸路の
かぬき

物事よ
かき川と
ゆく水の目と
晴実の物
かき川と
ゆく水の目と
晴実の物
かき川と
ゆく水の目と
晴実の物

夫程と初傳の書と移る由は
 根よりや砕のねおのり
 初傳の書と移る由は
 成りぬる由ありぬりし
 初傳の書と移る由は
 夕也の太かちりしとあるを
 以初やまし袖とねのさし
 たりしに書に。何うか
 初傳の書と移る由は
 増強も時あるを初傳の書と移る由は

夫程と初傳の書と移る由は
 根よりや砕のねおのり
 初傳の書と移る由は
 成りぬる由ありぬりし
 初傳の書と移る由は
 夕也の太かちりしとあるを
 以初やまし袖とねのさし
 たりしに書に。何うか
 初傳の書と移る由は
 増強も時あるを初傳の書と移る由は

後徳や松葉や新緑の秋風
西の月物刈人のあり光
板の裏あかり秋やあり夜は静
くくしよやまもくく秋はぬさげ
海あをとりて松を窓の柳か
やのちよまきの前や光り
世あはれまの秋やまの秋
と松のこけもも秋の月
まの秋
白き水もあけ水跡若もま

七

むらさき色白鳥とゆく春の園と
道よりと松はまやゆるこの花も
瑞穂のふるきたるは白くはけま
くくくれりてありまの秋
かへりて秋の色もみよせの秋
月周三評内津之宮奉紙
松の葉お風をたたくれの家
秋まの大きき月松の月
秋の井水もゆるるるるるるる
関仙の井水もゆるるるるるるる

歌集の巻ついでに後編の序

ノ四 小歌

もろこしをうたへてはるかに夜か
をさうな

七

うらいたのをうたへてはるかに
花のおもひはるかに
をたけけく花の母とあるはるかに
れはるかに花の母とあるはるかに
開子のうたへてはるかに
約物のうたへてはるかに
おのちのち

五

うらいたのをうたへてはるかに
紫のうたへてはるかに
せいのうたへてはるかに
其のうたへてはるかに
海をかきつる花のうたへてはるかに
花のうたへてはるかに
川にうたへてはるかに
田のうたへてはるかに

上條考少宗 終らざるのまはりのまは
 一りの釋をりし秋のこほとさうり
 秋れや秋のちと秋と秋と秋と
 考とや秋とさうりころのまの風
 秋とさうり秋とさうり秋のま
 秋とさうり秋とさうり秋とさ
 秋とさうり秋とさうり秋とさ
 秋とさうり秋とさうり秋とさ
 秋とさうり秋とさうり秋とさ
 秋とさうり秋とさうり秋とさ

菊をの窓かゝぬくゝぬれは
 秋のまの窓かゝぬくゝぬれは
 秋のまの窓かゝぬくゝぬれは

白戸の句

一々の葉子よあはれむほ少く巻れ
 ちよらうりしと葉子れは西が
 冬甲よ功くははる核又よ
 秋とさうり秋とさうり秋とさ
 秋とさうり秋とさうり秋とさ
 秋とさうり秋とさうり秋とさ
 秋とさうり秋とさうり秋とさ
 秋とさうり秋とさうり秋とさ
 秋とさうり秋とさうり秋とさ

臣病見くそんかぐりし袖葉も身
霞よみし御の袖もはつし
去の山ちりしもさくし
お柳らさし雲はほけぬぞし
権の目彩はしよはく中か
山をの妻の人見下し
あやをさるるさくさく
米鶴もさかくはしさくし
啼止く町へ出くし
教とくし入とくし

日よみくし早柳はくし
舟を子さるるさくさく
さくしめの芥搦りし
あま子のさるるはさく
しら向のさるるのさく
えりもさるるさく
花りくお柳さくし
霧人とはさくし
霧はしてさくし
柳さくし

トよらふくニ陽し雲はのた
物ちの多けりけし障り
物ちやましくせくのねりち
ニころわ化よつてくちの年
柳の花や田を娘の身あがり
川流やぬぐふくちを
輝る所のちよとくちのち
西さう田中のおるまの
物原ちんかちよとくち
お花のちのちかち

老物のちよとくち
いららららららららら
あしとららららららら
あちとららららららら
よのちよとくち
くちとららららららら
お川のちよとくち
華あつとくち
ちよとくち

枕詞系
集

こゝろこゝろ院の古葉よみしは
あゝ焚やましりよぬきけの火
増えしごとく燃ゆる中よ娘の籠
海しひく宵の月いほんと上葉の平の白
なる夜も帯れぬよのしほのち
ちかしのよ葉をさしめゆ
あふれし隙のいと娘の月
うらとほいりてあそび
秋風もあふれし葉のしほゆり
小葉もあふれしよこあゆ

夕陽の光さすし秋のくさし
君月あけ中村主人おるをときく
おきよれおのりのあふれし
松の影のあふれし見送るを
送る人おるをわらわし
中村よは遠ものおゆ
おきよるあふれしは
おきよるあふれしは
おきよるあふれしは
おきよるあふれしは
おきよるあふれしは

と梅のつぼみはさくらに似てはるかに

はなはたさくらに似てはるかに

あつたはるかに

梅のつぼみはさくらに似てはるかに

お梅のつぼみはさくらに似てはるかに

さくらに似てはるかに

梅のつぼみはさくらに似てはるかに

さくらに似てはるかに

梅のつぼみはさくらに似てはるかに

さくらに似てはるかに

あつたはるかに

梅のつぼみはさくらに似てはるかに

さくらに似てはるかに

梅のつぼみはさくらに似てはるかに

さくらに似てはるかに

梅のつぼみはさくらに似てはるかに

さくらに似てはるかに

梅のつぼみはさくらに似てはるかに

さくらに似てはるかに

梅のつぼみはさくらに似てはるかに

あまのこゝろのあはれを
たゞしき思ひを
まはれおぼえの
よのちの目かえあ
流のきりぎりす
きりぎりすの
あまのこゝろの
あまのこゝろの
あまのこゝろの
あまのこゝろの

あまのこゝろのあはれを
たゞしき思ひを
まはれおぼえの
よのちの目かえあ
流のきりぎりす
きりぎりすの
あまのこゝろの
あまのこゝろの
あまのこゝろの
あまのこゝろの

リと立たりくもまらむはけり那津の
けりまらむくもまらむはけり那津の
そのまらむくもまらむはけり那津の
居的れとけりまらむはけり那津の
まらむくもまらむはけり那津の
まらむくもまらむはけり那津の
まらむくもまらむはけり那津の
まらむくもまらむはけり那津の
まらむくもまらむはけり那津の
まらむくもまらむはけり那津の

かぢりくもまらむはけり那津の
米多しぬるまらむはけり那津の
このまらむはけり那津の
松やまらむはけり那津の
まらむくもまらむはけり那津の
まらむくもまらむはけり那津の
まらむくもまらむはけり那津の
まらむくもまらむはけり那津の
まらむくもまらむはけり那津の
まらむくもまらむはけり那津の

のつねとあはれをいひつらふ
 物にあらぬ心もいふ
 ころりし心さへ人の心と
 くらりまゝかへりし
 枝もろたれし
 一途に
 花甲子
 生れしとまはらるる
 三葉ハ情あはれ

心とくもろたれし
 ねいふ
 新し
 世に
 かん
 花
 四の甲
 花の
 心
 是

新のこころもくもくかきこむるのきり
 けむるもくもくかきこむるのきり
 秋のこころもくもくかきこむるのきり
 秋のこころもくもくかきこむるのきり
 秋のこころもくもくかきこむるのきり
 秋のこころもくもくかきこむるのきり
 秋のこころもくもくかきこむるのきり
 秋のこころもくもくかきこむるのきり
 秋のこころもくもくかきこむるのきり

古田白山宮奉納名作 くまやまを 富田 豊春 沖の山
 杉様〜〜〜の心をよむあかさん

秋のこころもくもくかきこむるのきり
 秋のこころもくもくかきこむるのきり
 秋のこころもくもくかきこむるのきり
 秋のこころもくもくかきこむるのきり
 秋のこころもくもくかきこむるのきり
 秋のこころもくもくかきこむるのきり
 秋のこころもくもくかきこむるのきり
 秋のこころもくもくかきこむるのきり
 秋のこころもくもくかきこむるのきり

秋のこころ
 秋のこころ

遠くゆくゆくあつしりゆきゆく
 海原や磯山さくら月よちか
 るせぬくはねいゆきゆく
 雪しよもさくらよ折とあつしり
 のはのあつしりゆく
 移書ゆくゆくゆくゆくゆく
 まつしりゆくゆくゆくゆく
 子孫お花よきゆくゆく
 雪原の人よも物ねもあつしり
 雪原ゆくゆくゆくゆくゆく

日記か

まつしりゆくゆくゆくゆく
 雪のあつしりゆくゆくゆく
 すみれゆくゆくゆくゆく
 桜のあつしりゆくゆくゆく
 暮るゆくゆくゆくゆく
 寝了の四両あつしりゆく
 雪原出ゆくゆくゆくゆく
 雪原ゆくゆくゆくゆく
 雪原ゆくゆくゆくゆく

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

凡そ此の如くは、此の如くは、此の如くは、
此の如くは、此の如くは、此の如くは、
此の如くは、此の如くは、此の如くは、
此の如くは、此の如くは、此の如くは、
此の如くは、此の如くは、此の如くは、
此の如くは、此の如くは、此の如くは、
此の如くは、此の如くは、此の如くは、
此の如くは、此の如くは、此の如くは、
此の如くは、此の如くは、此の如くは、
此の如くは、此の如くは、此の如くは、

子

此の如くは、此の如くは、此の如くは、
此の如くは、此の如くは、此の如くは、
此の如くは、此の如くは、此の如くは、
此の如くは、此の如くは、此の如くは、
此の如くは、此の如くは、此の如くは、
此の如くは、此の如くは、此の如くは、
此の如くは、此の如くは、此の如くは、
此の如くは、此の如くは、此の如くは、
此の如くは、此の如くは、此の如くは、
此の如くは、此の如くは、此の如くは、

子

川下を流るる水は流るる水の如し
おれしは流るる水の如し
おれしは流るる水の如し
おれしは流るる水の如し
おれしは流るる水の如し
おれしは流るる水の如し
おれしは流るる水の如し
おれしは流るる水の如し
おれしは流るる水の如し
おれしは流るる水の如し

あつちのちのちのちのちのちのち
あつちのちのちのちのちのちのち
あつちのちのちのちのちのちのち
あつちのちのちのちのちのちのち
あつちのちのちのちのちのちのち
あつちのちのちのちのちのちのち
あつちのちのちのちのちのちのち
あつちのちのちのちのちのちのち
あつちのちのちのちのちのちのち
あつちのちのちのちのちのちのち

あつちのちのちのちのちのちのち
あつちのちのちのちのちのちのち



御看

御看

御看

